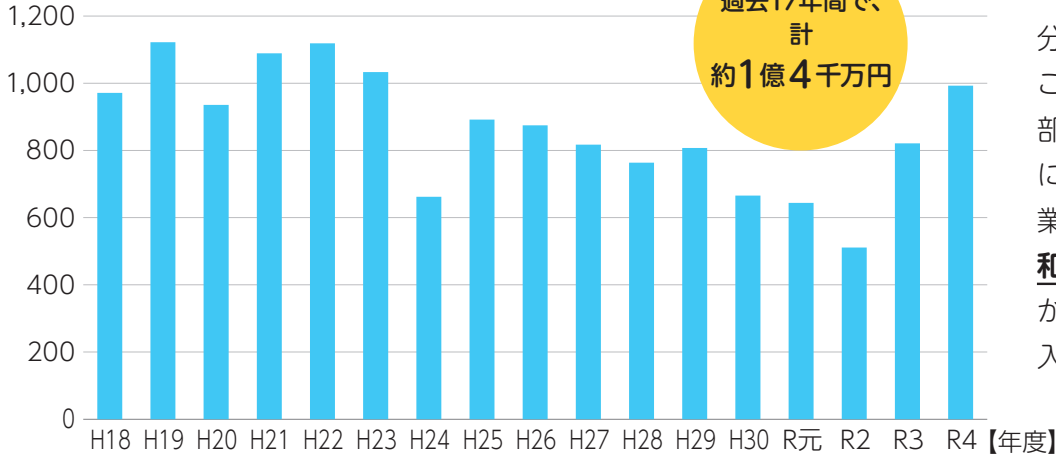


さらに)

リサイクルすることで資源ごみ売却益金が発生

【万円】

売却益金グラフ



町民の皆さまが丁寧に分別した資源ごみは素材ごとに分けられ、その一部はリサイクルされる際に再生可能な資源として業者に売却されます。**令和4年度は、約992万円**が売却益金として町の収入になりました。

益金の使いみち

環境衛生協力金として地域に還元

町内には155の自治会(各衛生自治会)があり、それぞれの地域でゴミステーションの維持管理を担っています。収益金の一部は自治会に協力金という形で支払われます。

大崎町リサイクル未来創生奨学金の原資として活用

この奨学金制度は、長年取り組んできた、家庭から出された資源ごみが再び価値あるものとして活用される持続可能な資源循環型社会づくりのように、本町で育った人材が勉学に励むことを支援し、故郷の活性化を担う人材に成長し、再び本町に戻ってきて活躍するようお願いつづられた独自の制度です。大学などを卒業後、10年以内に本町に戻ってきた子どもの保護者に対して、最大で元金と利子の返済を全額補助します。現在、55名(令和4年12月現在)が、利用されています。



その他、ごみの収集やリサイクルセンターでの処理などに関する経費として活用されています。

Aランクの資源を出荷!?

有限会社そおりサイクルセンターで、計量や出荷などの管理をしている総務担当の春田大輔さんにお話を伺いました。

大崎町のご家庭から出されたごみは、きれいな状態でしっかりと分別されています。資源ごみは、業者さんに売却などをおこなっていますが、年に1度の検査の際につねに「Aランク」という一番良い評価を業者さんからいただいています。大崎町の資源ごみはきれいだ、と喜んで買い取ってもらっています。ご家庭できれいに分別していただき、心から感謝しております。



※有償で引きとられるプラスチックやペットボトル、空き缶などは、益金として全額町の収入になります。